新たな環境の中で　てんしゃば

平成16年度に、地域の中で自立した生活を目指し、館林駅前通りに地域ホーム「てんしゃば」を開所し、女性4名での生活が始まりました。

その後、地域ホームからグループホームへと変わり、「そら」・「あすかA」・「あすかB」・サテライト型ホーム「西隆館」の各ホームを増設してきました。

てんしゃば

「利用者が安らげる暮らしを、利用者と共に作っていく」の基本理念の下、利用者が地域の一住人として自ら人生を楽しむことができるような生活支援を心がけています。一人ひとりが自分なりの生活を送りながら15年の歳月が過ぎ、ホーム「てんしゃば」は老朽化や利用者の高齢化等により生活していくには不具合が見られるようになってきました。生活する上で住居環境は最も大切であり、安心して暮らせる場所を整えるために、このたびホーム「てんしゃば」は廃止し、ホーム「あすかA・B」の地に新たにホーム「あすかC」を設ける事にしました。

あすか

住み慣れた場所が変わるのは期待と不安が伴います。その思いに寄り添いながら、新しい環境で安心した生活を送れるように心のケアも含めて準備してきました。

引越しは夏季休暇を利用して猛暑の中、行いましたが、あすか利用者皆さんの協力もあって無事に済み、ホーム「あすかC」での生活がスタートしました。

今では新たな場所での生活にも慣れ、各々が交通機関を利用して日中の事業所に通っています。

また、休日ともなると市バスを使って一人で出かける人、移動支援を利用してヘルパーさんと遊びに行く人、近所のスーパーでおやつを買い、テレビを見ながら部屋で過ごす人等々。

ホームは皆さんにとって「住み慣れたまちで暮らし続けたい」という思いをかなえるための場、安らげる場でなければなりません。そのためには、社会資源を有効活用しながら、生活の幅を広げていきたいと思います。これからも大勢の人と関わりながら暮らしていきたいと思います。何より地域の人々の理解や温い見守りに感謝しています。

今後もご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

主任　生活支援員
勤続32年　森田雪江